

## 2020（令和2）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

- 一 機会均等により集団間の不平等さえ是正すれば、あとは個人の才能と努力の差とされ、社会の変革運動に関心が生じないから。
- 二 近代の自由意志に導かれる主体の内因にあるとされる自己責任の根拠は、すべてが外来要素の結果であり、虚構であるから。
- 三 能力主義による既存の階層構造の巧妙な正当化は、被支配者に支配の実態を隠し、正しいと感知させることに当るということ。
- 四 近代以前は共同体を超えた存在を根拠として不平等が当然視された。近代では、人間を自由意志の主体として格差の解消を説くのは虚構であり、現実の支配関係による格差を自己責任によると偽る建前として機会均等が主張されるようになったにすぎないということ。（一二〇字）
- 五 a 培      b 誕生      c 欠陥